

教員名	市古 夏生 (ICHIKO Natsuo)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	博士 (文学) (早稲田大学 1998)
職 名	教授
URL / E-mail	ichiko.natsuo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

近世文学 / 仮名草子 / 浮世草子 / 出版文化 / 原稿料

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・『増益書籍目録大全』と西鶴本 (『西鶴』と浮世草子』1)
- ・『書籍覚書』下 (『国文』106、40-50)

◆研究内容

日本近世文学の中で17世紀を中心に研究を行っているが、ここ2、3年江戸時代初期の小説・随筆類の中で、写本で流通している書物を精査し、版本との相違や独自性、特色などを考察しつつある。また近世文学は出版文化の開花した時代であり、文学環境の1つとして出版に関する究明が必要である。出版文化を文学だけでなく幅広く分析するために、元禄時代に刊行されている「書籍目録」の諸本調査と収載書籍の基準などについて研究を進めており、その研究の一端は『増益書籍目録大全』と西鶴本に反映させている。さらに寛文年間(1661~73)に漢学者がどのような意識で書籍を購入したか、ということが判明する資料「書籍覚書」を紹介する。

出版文化が開花してから起る現象として、作者・著者の権利、すなわち著作権の問題がある。著者への報酬(原稿料・印税)がどのように推移し、どの程度の収入があるのか、文学者の経済的な基盤が確立する時期などに関する究明を行うため、科研費でプロジェクトを組んでいる。

◆教育内容

日本近世文学に関して教育を行っている。文教育学部では、「日本古典文学史論」で近世小説の展開を作品を紹介しつつ、講義をしている。「日本古典文学論演習」では、語句や背景となる風俗を調査させて、近世小説の読み方を習得させる。18年度は西鶴の浮世草子「懷硯」巻4と西鶴関わった『近代艶隠者』を対象とした。大学院では「日本近世文学演習」では、近世中期の京都の出版機構の活動を明らかにする目的で、京都の老舗出版者である風月家の日記『日曆』を輪読した。

◆共同研究例

吉村助教授及び日本服飾史専攻の大学院生と近世文学専攻の大学院生とともに、挿絵の研究を比較日本学研究センターのプロジェクトとして実施している。

◆将来の研究計画・研究の展望

- ①18年度より3年間科学研究費補助金で「出版機構の進化と原稿料についての総合的研究」を6名の研究者とともに推進しており、近世から現代に至る作家の経済的自立に関する推移をまとめる。
- ②近世前期の出版物の目録である「書籍目録」の諸本調査と、出版者別に出版書をリストにし、文学関係出版者の特色、文学書の位置づけなどを考察する。
- ③それに合わせて近世前期の出版書年表を作成する。
- ④写本と版本の混在する仮名草子に関して、メディアの視点から分析を進める。
- ⑤仮名草子から浮世草子にかけて、女性に対する表現を分析する。

◆受験生等へのメッセージ

現代から一番近い時代の古典文学、これが近世文学です。文体、語句なども近代以降に繋がるものなので、読み慣れると理解しやすいと思います。

井原西鶴、曲亭馬琴などの書いた小説、松尾芭蕉の俳諧・奥の細道などはよく知られていますが、それ以外にも面白い怪異小説、遊里文学などがたくさん残されています。

また文学作品を出版し始めたのが江戸時代です。出版に関わる規制、作者と出版者との関係など興味は尽きません。近世文学の世界をぜひとも知っていただきたいと思います。